



会 社 名 黒田精工株式会社
 代表者名 取締役社長 黒田 浩史
 (コード番号 7726 東証 第 2 部)
 問合せ先 経理部長 荻窪 康裕
 (TEL 044-555-3800)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2018 年度を初年度とする、2020 年度までの 3 年間を対象とする中期経営計画 2020 を策定いたしましたのでお知らせいたします。

記

当社グループは 2016 年 5 月 30 日に 2016 年度から 2018 年度までの 3 年間を対象とした中期経営計画 2018 を策定し発表いたしました。この中期経営計画の利益目標であった営業利益 5 億円を 2 年目にあたる 2017 年度に達成することができました。更なる成長戦略の実行と企業価値の向上を図る為、このたび新たに中期経営計画 2020 を策定いたしました。中期経営計画 2020 の内容は下記のとおりです。

当社グループは、「精密技術を通じて世界の産業の高度化をサポートする」ことを使命とし、成長戦略の実行と収益力の改善、人材育成により企業価値の向上を図る、という全社ビジョンに則り、以下の 3 つの事業分野においてそれぞれ世界的にニッチトップとなることを目指します。中期的に営業利益 10 億円を安定的に確保する体制を確立することを目指します。

セグメント別の経営戦略は下記のとおりです。

○駆動システム

駆動システム事業においては、主要市場である半導体、液晶、ロボット関連等の需要の増加により歴史的な高水準の受注が継続しています。短期的調整はありうるものの、これらの市場やライフサイエンス市場における需要の構造的拡大は今後も続くこと判断したことから、本中期間中に更なる生産能力の増強と納期短縮を実施します。具体的施策としては、かずさアカデミア工場の拡張を行い、小型製品を中心に工法改革・自動化と設備の増強を推進します。

同時に Jena Tec グループとのシナジーの加速と海外展開の強化により、Kuroda Jena Tec を精密直動システムの世界的ブランドとして確立することを目指します。また直動アクチュエーター商品の開発を進め、ソリューション提案力の強化を図り、お客様との関係を一層強化して行きます。更に海外子会社を含めた国内外流通網の整備により短納期対応力の強化を図ります。

これらの施策を通じて、「誰よりも早くお客様のニーズに応えられる小型直動システムメーカー」というビジョンの実現に向けて邁進して行きます。

○金型システム

金型事業においては、世界的な自動車の電動化の動きやロボット市場の拡大、高効率モーター需要の増大等を背景に、高性能モーターコアやそれを作るための精密プレス金型システムの需要の増加が見込まれます。これに対応し、当社としては金型の製造設備を増強するとともに、大型プレスの設備投資を実施します。また、当社の海外子会社やユーログループ等のパートナーとの提携を活用したグローバル展開を進めます。当社が開発した金型内接着積層システム「Glue FASTEC®」やそれに続く新工法の開発と量産プロセスの確立に注力します。

これらの施策を通じて、「高効率精密積層コアのスペシャリスト」として、世界最高性能のモーターコア等の積層コアとその製造システムのサプライヤーとなることを目指します。

○機工・計測システム

機工・計測システム事業に関しては、過去数年間かけて商品の大幅な絞込み、ハイドロリックツールや工作機械部門の富津工場移管による生産性向上と増産体制の確立等の事業構造改革を推進して来ました。

当社の高精度ハイドロリックツールは、ロボットに使用される部品の製造や、新しいプラットフォーム開発が進む自動車用ギアユニットの加工・検査用に、需要が拡大しています。また当社の工作機械や計測システムも、アジアの半導体や光学分野を中心に需要の増加が見込まれます。

今後は、これらの成長が期待される分野への拡販に努めるとともに、新たな高付加価値ソリューションの開発に注力し、「精密な計測と加工の総合ソリューションプロバイダー」として、当社グループならではの商品やサービスを提供することを通じて、一連の構造改革の成果を収益成長につなげて行きます。

数値目標

百万円

	2017 年度実績	2018 年度予想	2020 年度目標
連結売上高	16,117	17,600	20,000
連結営業利益	522	840	1,300
ROE	3.1%	5.3%	7.9%

【本資料に関する注意事項】

本資料に記載されている中期経営目標等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基いており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上

A faint, light gray world map is visible in the background of the slide, centered behind the text.

2018年度版

中期経営計画2020

2018年度～2020年度

黒田精工株式会社

経営ビジョン

<全社ビジョン>

当社グループは、

- 「精密技術を通じて世界の産業の高度化をサポートする」ことを使命とし、
- 以下の3つの事業分野においてそれぞれ世界的にニッチトップとなることを目指すとともに、成長戦略の実行と収益力の強化、人材育成により企業価値の向上を図ります。

<事業ビジョン>

- 駆 動：「誰よりも早くお客様のニーズに応えられる小型直動システムメーカー」
- 金 型：「高効率精密積層コアのスペシャリスト」
- 機工計測：「精密な計測と加工の総合ソリューションプロバイダー」

黒田精工の強み

機工・計測システム

- ・加工から測定までの幅広いソリューション
- ・ナノメートルレベルの高精度測定技術
- ・顧客の多様なニーズに対応するカスタマイズ



ボールねじの供給

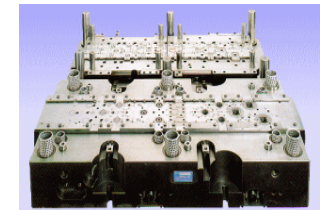


研削盤、測定機の供給

研削盤の供給

加工ニーズのフィードバック

世界トップクラスの精密技術



駆動システム

- ・ゲージを発祥とする精密ねじ加工技術
- ・自社製のねじ研削盤による高水準の生産技術
- ・日独生産ボールねじのバリエーションと柔軟な納期対応

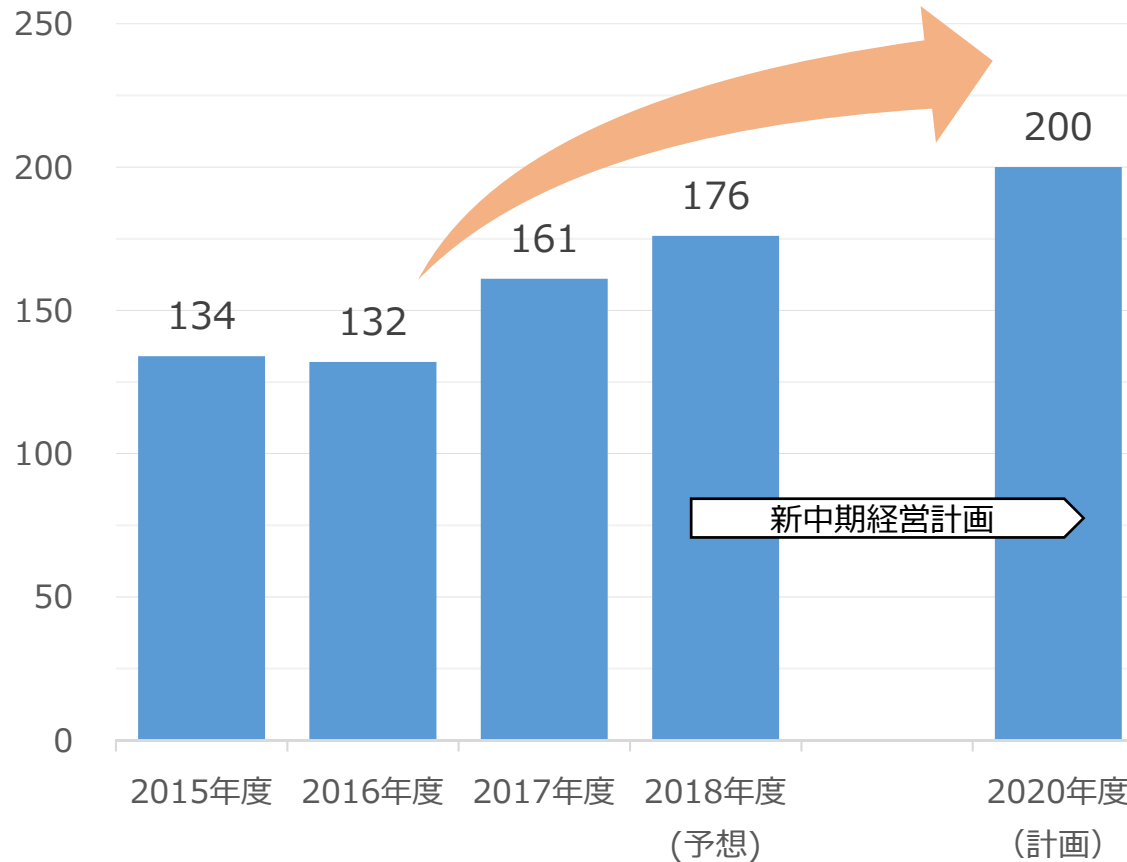
金型システム

- ・接着、レーザー、カシメの3パターンの型内積層技術を持つ世界唯一のモーターコア金型メーカー
- ・Euroグループとの提携による海外ネットワーク

連結経営数値目標

単位：億円

2020年-売上高200億円



	2018年度	2020年度
売上高	176億円	200億円
営業利益	8.4億円	13億円
ROE	5.3%	7.9%

中期目標：安定的に営業利益10億円を生み出す体制を確立する

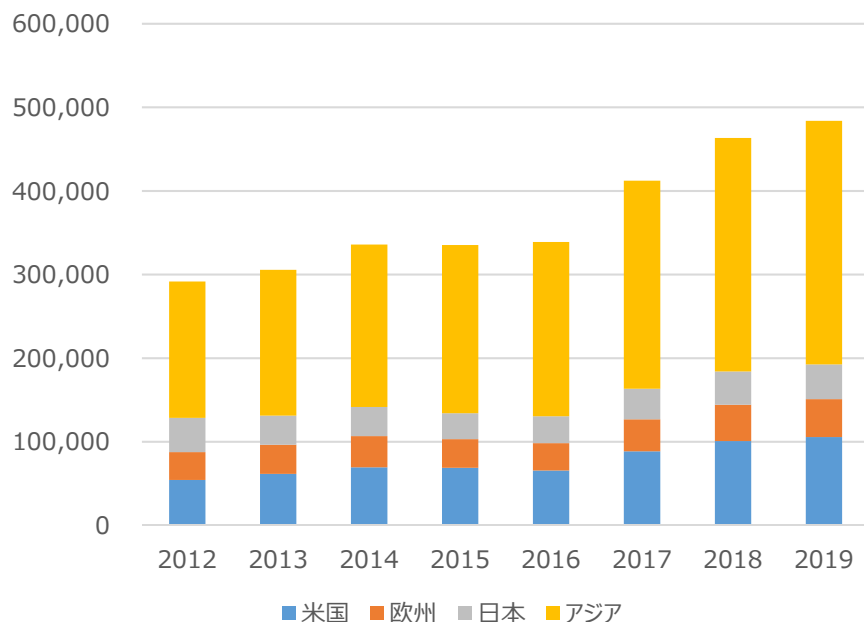


事業戦略 ① 駆動システム

誰よりも早くお客様のニーズに応えられる小型直動システムメーカーを目指す！

世界地域別半導体市場予測

単位：百万\$



※出典：WSTS資料

<事業環境>

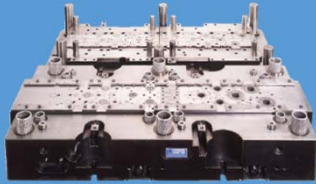
- ・主要市場の半導体、液晶、ロボット関連の需要増加
- ・半導体の用途の拡大（IoT、AI、自動運転など）
- ・ライフサイエンスマーケットの拡大



<事業戦略>

- ・中小径サイズのマーケットに焦点
- ・かずさアカデミア工場の拡張、自動化設備投資による中小径ボールねじの生産能力拡大
- ・海外戦略商品、販路の強化
- ・直動アクチュエーター事業の強化

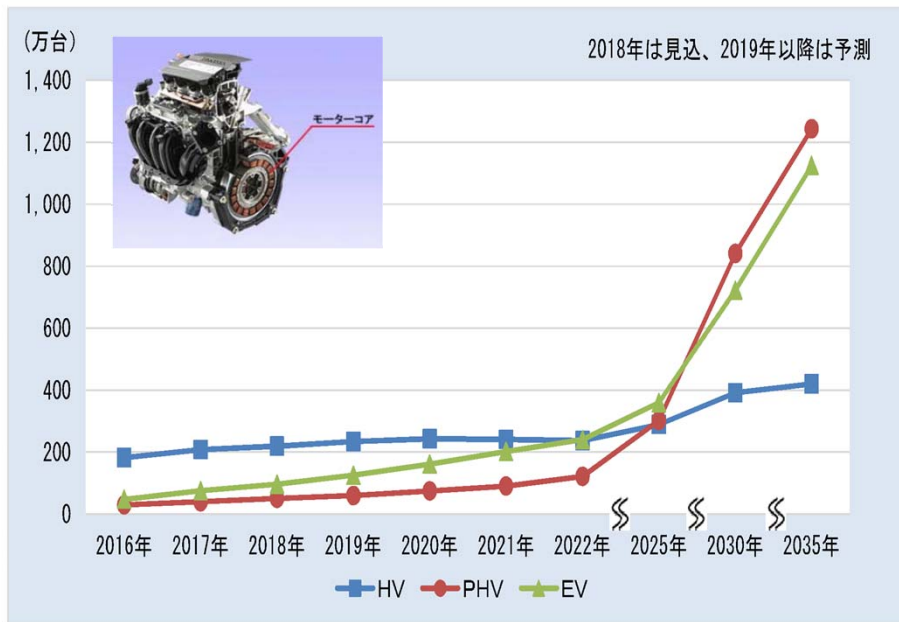
⇒2020年度に売上高20%アップへ（2017年度比）



事業戦略 ② 金型システム

高効率精密積層コアのスペシャリストを目指す！

HV、PHV、EVの世界市場



※出典：株式会社富士経済
「2018年版HEV、EV関連市場徹底分析調査」

注：トラック・バス/超小型モビリティを除く。

<事業環境>

- ・米国、中国、欧州を中心とした自動車の電動化及び高効率産業用・家電用モーター需要の拡大
- ・高品質な精密プレス金型と高効率モーターコアの需要増加



<事業戦略>

- ・金型の製造設備投資による生産能力の拡大
- ・大型プレス設備投資による市場対応力の強化
- ・新工法の開発と量産プロセスの確立
- ・Euroグループ等との提携によるグローバル展開

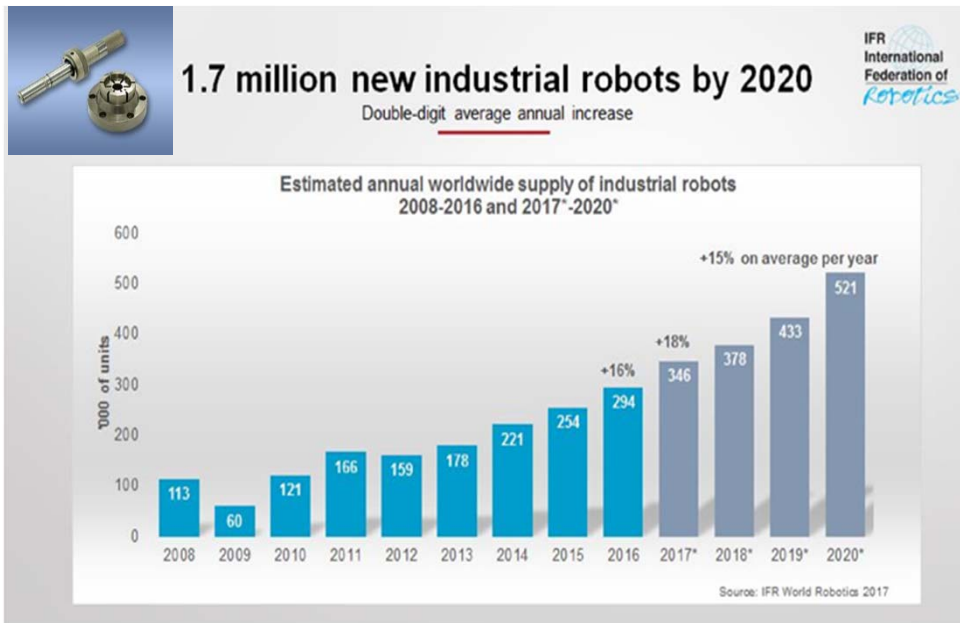
⇒低炭素社会の実現に貢献！



事業戦略 ③ 機工・計測システム

精密な計測と加工の総合ソリューションプロバイダーを目指す！

世界の産業用ロボット市場規模推移



※出典：IFR World Robotics 2017

<事業環境>

- ・ロボット向け部品需要の拡大
- ・自動車用新型ギアユニットの開発
- ・IoTの進展
- ・アジア市場における半導体、光学市場の拡大



<事業戦略>

- ・高精度 hidroリックツール（HT）の拡販
- ・研削盤と計測システム等を組み合わせた高付加価値ソリューションの開発
- ・アジア市場の開拓

⇒構造改革の成果を踏まえソリューション展開へ

事業戦略 ④国内工場の生産能力増強



駆動事業 かずさアカデミア工場

ボールねじの生産増強に向けかずさ工場の増床、中小径サイズの生産自動化設備投資。2016年度対比で75%の生産能力増強を目指す。



金型事業 長野工場

工作機械の富津工場移管により、今後需要の拡大が見込まれるEV向け金型、モーターコアの生産スペースを確保。大型プレス、周辺装置の導入へ。



機工・計測事業 富津工場

ハイドロリックツール・工作機械の製造を長野工場から富津工場に集約完了。効率的な事業推進体制の構築により、増産とソリューション開発を目指す。

事業戦略 ⑤ 海外拠点の整備



JGWT（ドイツ）

- ・駆動事業の欧州地域の製造拠点として設備更新による生産体制の整備
- ・日本製品とドイツ製品のシナジー発揮
- ・欧州流通拠点としての戦略強化



KPM（マレーシア）

- ・携帯用振動用モーターコア依存からの脱却、新たな分野への業態転換
- ・レーザーを中心に小型モーターコア生産の重要拠点へ



KPP・KJTP（中国）

- ・中国の金型のメンテ・保守に加え、ボールねじの組立・端末加工へ業態拡大
- ・中国子会社2社を統合し、効率化と機能拡充を図る

経営基盤 ESGへの取り組み

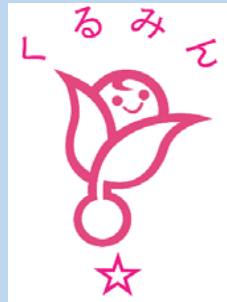
KURODA

Environment 環境

- ・環境方針の策定、環境マネジメントの継続的な改善
- ・環境負荷の低減に貢献する商品分野での事業展開
⇒アクチュエーターの電動化、高効率モーター、エコカー、微小潤滑油

Society 社会

- ・品質第一、健康安全第一への取り組み
- ・人財ロードマップに基づく人財育成
- ・ワークライフバランスの充実
- ・働き方改革推進による従業員満足度向上



Governance ガバナンス

- ・コンプライアンス、内部統制の徹底
- ・コーポレートガバナンスコードへの対応
- ・役員報酬制度の改定

〔本資料に関する注意事項〕

本資料に記載されている中期経営目標等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問い合わせ先

黒田精工株式会社 管理本部
TEL 044-555-3859